

臥竜公園里山整備利用促進基本構想 概要

当初設計（植栽計画）の概要（本多静六博士設計「須坂町公園設計案」）

イ) 臥竜山峰通りの老松のある一帯

松を中心とする眺望のよい休養の場とする。

ロ) 北入口から臥竜山西側の中腹の下自動車道路の上の地域

槭類(モミジやカエデ)5、6割を補って植え、秋は紅葉、夏は雑木林の山の新緑の美を見せる。

ハ) 北入口から臥竜山東側中腹の温泉浴場上の一帯

山桜6割、松、杉に3割、紅葉樹を1、2割の割合で植え、山腹以下を山桜で飾って桜区とする。

ニ) ヌスト谷から南方松尾神社下の割合平坦地の多い所

自然植物園区として樹名板を設置し自然科学の知識養成に役立てる。
ヤマブキの谷として保護して名所とする。

ホ) 観音山北側中腹の回遊道路に沿った松林

ツツジ区として松林の下にツツジ山とする。

ヘ) ツツジ区の中腹道路の上の約50坪の平地

芝を刈込み整地して、野外舞踏場とする。

ト) 舞踏場道と竜の池に沿う下り道

松の青葉とモミジの紅葉が池に移る景勝の地として、松の下に紅葉樹を5、6割植えてモミジ谷を作る。

チ) 観音山の西北の端

枝垂桜の若木を補強して枝垂桜の名所として整備。

リ) ツツジ区の下黄金樹畑、桑畑のある低地一帯

一大池(竜の池)を新たに掘り、観音山西方の畑中を流れる川の一部を分けて引き込む。
池の周囲には幅2m以上の遊歩道を設け南北両側には7ないし10mおきに枝垂桜を植える。

ヌ) 観音山西側

人工的に手を加えず自然の風景のすばらしさを維持。



基本方針

里山整備のコンセプト ～ 四季を通じて老若男女が集い憩える里山 ～

里山整備作業がしやすい環境づくり

- 管理作業の効率化(作業道の再整備)
- アカマツ保全区域の明確化(集中管理面積の縮小、耕種転換)

地域特性を活かした多面的な利活用

- 四季を通じて自然と触れ合える魅力ある空間づくり
- 文化的・歴史的・自然的要素の再発掘及び活用
- 臥竜山(マツ)及び竜ヶ池(水辺)と桜が織りなす景観整備
- 展望台や子ども遊び場などの創出

安心・安全が確保された快適な空間づくり

- 明るく見通しがよい空間づくり(密度調整、下層植生の処理)
- 国籍・年齢性別を問わない利用促進(ユニバーサルデザイン)

維持管理から運営利用への発想の転換

- 市民が関わりやすい基盤の整備と体制づくり
- 市民の里山的活用による山林の維持・更新